

近代日本の産業遺産における公開活用に向けた整備計画の特徴

安田研究室 16B06319 小林 由佳 (KOBAYASHI, Yuka)

1. 序 近代日本の産業遺産を公開活用する事例が近年増加している。また、これらの世界遺産への登録に向けた動きも活発になっている。産業遺産の活発な公開活用のためには、見学通路の整備や解説・展示のための施設の設置が必要になるが、このような国内の産業遺産の整備計画についての研究は十分にはなされていない。本研究では、国内の産業遺産事例のうち世界遺産に登録済みの事例及び暫定リスト入りをした事例において、産業遺産の公開活用に向けた整備計画の特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 事例の概要 屋外での遺構¹⁾の展示を中心とする産業遺産のうち、既に世界遺産に登録されている「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」から8事例、暫定リスト入りをした「佐渡金銀山 金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」から1事例を対象事例とした(表1)。これらは江戸時代から1900年代後半の間に稼働していた産業施設であり、具体的には、たたら製鉄所、反射炉とその関連施設、炭坑関連施設であった。産業遺産に適用される制度の中でも世界遺産条約は遺産の保護に特化した制度であるため、世界遺産に登録されている遺産においては、遺産の真正性及び完全性を侵すような変更や整備は制限されている。したがって、対象事例となる遺産の顕著な普遍的価値を損なわないよう配慮しながら整備を実行する必要がある。

3. 整備計画の方針 各自治体の出す保存・公開・活用についての計画書²⁾内の言説を元に、整備計画の方針を分析した。

3-1. 整備計画全体の方針 整備計画全体の方針として特に重要視されているもの³⁾を分析した(表2)。全て

の事例で景観の維持改善が方針として挙げられており、遺構本体だけでなくその周辺の景観も重要視されていることがわかる。

3-2. 見学通路の方針と設定方法 見学通路の整備の方針(表3)、見学通路の設定方法(表4)について分析した。見学通路の整備の方針として産業システムの理解の増進を挙げた6事例中5事例の順路において、遺構の前に新規のガイド施設を配置することが意図された。

3-3. 遠景の維持 遠景について計画書に記述があったのは④⑥⑦⑨であった(図1)。例えば④では丘陵のような景観を維持するために植栽の整理が行われるなど、遠景を重要視し、そのための整備をする計画が見られた。

4. 整備計画の特徴 各自治体の出す保存・公開・活用についての計画書内の計画図を分析した(図2)。

4-1. 遺構の残存状態 各事例を遺構の残存状態により3つに分類した。主要遺構⁴⁾以外の遺構も残存する事例、主要遺構のみが残存する事例、地上建物が残存しない事例に分けられた。稼働時期が現在に近い事例ほど遺構が多く残る傾向が見られた。

4-2. 見学通路の平面的特徴 当時の製造工程を辿ることを意図して計画された①②⑦においては、平面図内で製造工程の動線と現在の見学通路が一部重なっていることがわかる。当時の人の動線を辿ることを意図して計画されたものには、敷地の入り口から炭坑に入るまでの人の動線を順番に見るもの(⑦)、建物に沿う通路であった場所を再現しているもの(⑧)が見られる。また、見学通路の設定方法について記述のない⑨においては、廃墟の景観維持のため主要遺構だけでなくその他の遺構も取り壊されず多く残されていた。⑨では遺構を避けて見学通路が作られているが、これは安全性を考慮したためであると考えられる。

4-3. 見学通路におけるビューポイントの特徴 遺構本体を見ることを意図したと考えられる場所をビューポイントとし⁵⁾、そのうち周辺景観を含めた遺産全体を概観するもの、遺構本体を見るものを図2中に示す。また、これらのビューポイントと遺構との高さの関係を図3に示す。9事例中5事例で概観するビューポイントが設置

表1 事例の概要

事例名	所在地	稼働時期	元の用途	周辺環境
①大板山たたら製鉄遺跡	山口県	1751~1868頃	たたら製鉄所	山林
②旧集成館 第一期集成館ゾーン	鹿児島県	1851~1863	反射炉, 高炉等	山林
③寺山炭窯跡	鹿児島県	1858~1863頃	炭窯	山林
④萩反射炉	山口県	(1856)'	反射炉	市街地
⑤韮山反射炉	静岡県	1857~1868	反射炉	市街地
⑥三池炭鉱宮原坑	福岡県	1898~1931	炭坑	市街地
⑦三池炭鉱万田坑	熊本県	1902~1951	炭坑	市街地
⑧北沢浮遊選鉱場跡	新潟県	1902~1951	選鉱場	市街地, 山林
⑨端島炭坑(軍艦島)	長崎県	1887~1974	炭坑, 住宅等	海

図注 *1856年に建設されたが、稼働には至らなかった。

されており、7事例で遺構本体を見るビューポイントは遺構と同じ高さからのものであった。

5. 結 以上、本研究では世界遺産に登録された産業遺産の公開活用に向けた計画について分析し、その特徴を明らかにした。

[注]

- 1) 本論文において、遺構は使われなくなった建物本体やその一部、遺産は複数の遺構を含めた敷地全体を表す。
- 2) 例えば、『史跡萩反射炉 6 史跡等整備基本計画「世界遺産 明治日本の産業革命遺産 製鉄・製、造船、産業」萩反射炉 3 構成資産修復・公開活用計画』(萩市, 2018. 3)等の関係地方公共団体が定める「修復・公開活用計画」を主に調査資料として用いた。
- 3) 各事例が掲げている整備計画全体の方針の中でも、基本的な方針として扱われている事項を特に重要視されているとした。
- 4) 本論文において主要遺構とは、遺産全体を見学する上でその中心となる遺構を指す。具体的には、当時の製造施設において中心の建物だった遺構、産業について理解しやすいとして優先して修復される遺構、遺産のシンボルとしての役割を果たしている遺構などを選定した。
- 5) 指示対象である遺構が明確な解説板の位置をビューポイントとした。

表 2 整備計画全体の方針

整備計画の方針	該当する事例	該当する記述の例
遺産の保存	①②③④⑤⑧⑨	日本古来の製鉄技術「たたら」を表す遺構の持続可能な状態の維持及び修復
産業システムの理解の増進	①②③⑤⑧	大砲製造に関わる産業システムの視覚化による来訪者等への理解増進
地域活性化に向けた公開活用	②⑤⑥⑦⑧	…これからのまちづくりのエネルギーとなる公開活用を進める。
景観の維持改善	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨	海上からの遠景では軍艦のような独特のシルエット、近景では劣化破損が進行し廃墟の景観といった「景観の維持

表 3 見学通路の整備の方針

見学通路の方針	該当する事例	該当する記述の例
産業システムの理解の増進	①②④⑤⑥⑦	② …、産業システムの流れをイメージできるような順路を設定し、
当時の状況の追体験	⑥⑦⑧⑨	⑦ 石炭採掘の最盛期である昭和 14 年頃の状況を追体験できるように、…
アクセスの確保 / 運営の円滑化	③⑥	⑥ 来場者の入場管理を円滑にし、…
その他	⑧	⑧ …それらを辿りながら、目の前に展開する本物の風景を体感する

表 4 見学通路の設定方法

見学通路の設定方法	該当する事例	該当する記述の例
当時の製造工程を辿る	①②⑦	② 第 1 期集成館ゾーンでは、大砲製造の工程に沿って順路を設定する。
当時の人の動線を辿る	⑦⑧	⑧ 人々が往來した建物間の通路部を新たに回遊路として再生する、…
ガイド施設、遺構の順に配置	①②⑤⑥⑦	⑤ (1)ガイドセンター⇒(2)構成資産区域⇒…
その他	③④	④ …、近づいて多方向から反射炉の形を観察できる動線を確保する。

景観について記述のあった事例	遺構に対するビューポイントの高さ
丘陵のような景観 ④萩反射炉 植栽の整理	遺構より上から ①④⑥⑦
周囲から突出した景観 ⑥三池炭坑宮原坑、⑦万田坑 周囲の建物の高さを制限	遺構と同じ高さから ⑧
軍艦のようなシルエット ⑨端島炭坑 護岸の保護	遺構より上から 遺構と同じ高さから ③ ①②④⑤⑥⑦⑧

図 1 遠景について記述のあった事例

図 3 遺構に対するビューポイントの高さ

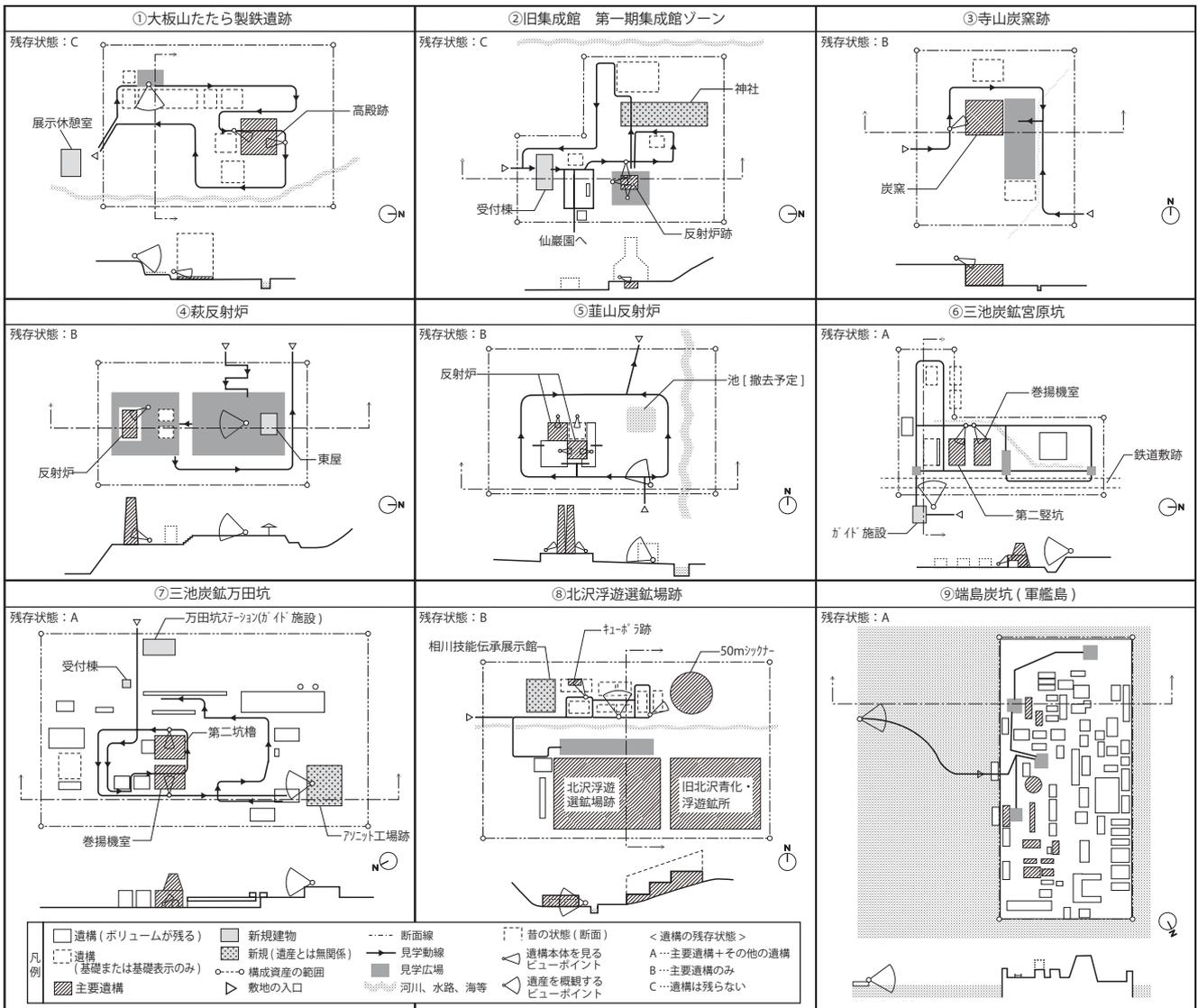


図 2 事例の基本情報と配置の模式図